

富士川の中流域における 「アユを育む川づくり」

第二回検討会

資料－ 1 令和 4 年度の活動報告

令和 5 年 3 月 2 0 日

第1・2回WGアユに関する勉強会のまとめ（キーワードの整理）

■ アユに関すること

- ✓ 4-5月に5cm程度まで成長した稚魚を河川に放流
- ✓ 養殖アユは天然アユより成長が早い
- ✓ 継代飼育している親魚を使う
- ✓ 駿河湾産の天然アユを追加し親を入れ替える
- ✓ 湖産アユは琵琶湖内などでは回遊アユより小さい
- ✓ 餌条件や生息環境により最大のサイズが決まる
- ✓ SS22mgで忌避行動、長期化するとSS5mgでも影響
- ✓ 昨年は放流アユが殆ど本年は天然アユ

アユの飼育

アユの成長

餌生物

濁り

流砂

アユの回復の兆し

ポジティブ、ネガティブ、ニュートラル

第1・2回WGアユに関する勉強会のまとめ（キーワードの整理）

■ アユの生息の場に関すること

- ✓ コンクリート護岸・河道の直線化、大石の除去
- ✓ 河床勾配の低下
- ✓ 平坦化すると魚類の数が減少する
- ✓ 魚道の設置のほか、適切な管理が必要
- ✓ 瀬・淵がなくなる
- ✓ 瀬はあるが淵が少なく地形の多様性がない
- ✓ 瀬淵構造が連続
- ✓ 大きな石と瀬淵構造が必要、淵が少ない
- ✓ 直径25cm以上の大石が多くそれが浮石であるほどアユが定着しやすい
- ✓ 流砂は少ない
- ✓ 河床に25cm以上の大きな石
- ✓ 河床材料が大きい
- ✓ 大石が点在しており、多様な河床環境を創出
- ✓ 良い環境は、濁りが少ない、大石・浮石が多い、瀬淵等の多様な環境が存在

河川工事

河川環境の単調化

河床勾配

横断工作物

魚道の管理

瀬淵

流れの緩急

大石

大石

流砂

流れの緩急

濁り

浮石

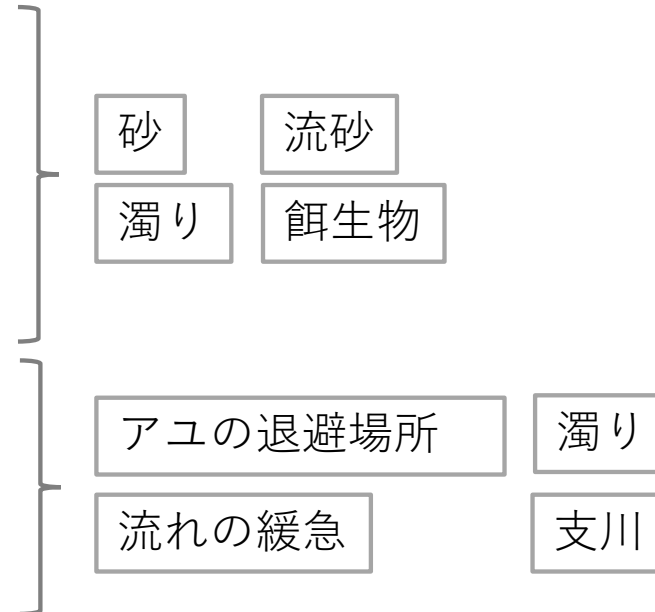
瀬淵

ポジティブ、ネガティブ、ニュートラル

第1・2回WGアユに関する勉強会のまとめ（キーワードの整理）

■ アユの生息の場に関すること

- ✓ 河床に砂が堆積
- ✓ 常に砂が巻き上がっている
- ✓ 藻類の剥離、濁りによる光合成阻害が発生
- ✓ 砂が多いとアユが定着しにくい
- ✓ 流砂はほとんどない
- ✓ アユの逃げ場
- ✓ 出水時の退避場所
- ✓ 早川からの濁りが少し落ち着いた
- ✓ 福土川が濁りにくい川



■ アユ釣り（賑わい）に関すること

- ✓ 11月中旬までアユ釣りの客

賑わい 釣り客

ポジティブ、ネガティブ、ニュートラル

既往調査結果のまとめ

■ アユの生息に関すること

- ✓ 平成6年から22年の間には長期的な大型アユの増加や減少の傾向はみとめられない
- ✓ 夏季の南部橋に着目するとアユは直近のH16年度～H31年度にかけては減少傾向
- ✓ 平成24年以降、遡上するアユの個体数が大幅に減少している。
- ✓ 魚類全体でもアユと同様に直近の平成21年から平成31年度の個体数の減少傾向
- ✓ アユの確認状況と洪水の回数の関係性は明らかではない。
- ✓ R3-4年度の回復の兆しを確認されている

アユの減少

アユの回復の兆し

■ アユの放流に関すること

- ✓ 漁協によるアユの放流量は経年的に減少傾向である
- ✓ 放流場所は、本川から支川にシフトしている

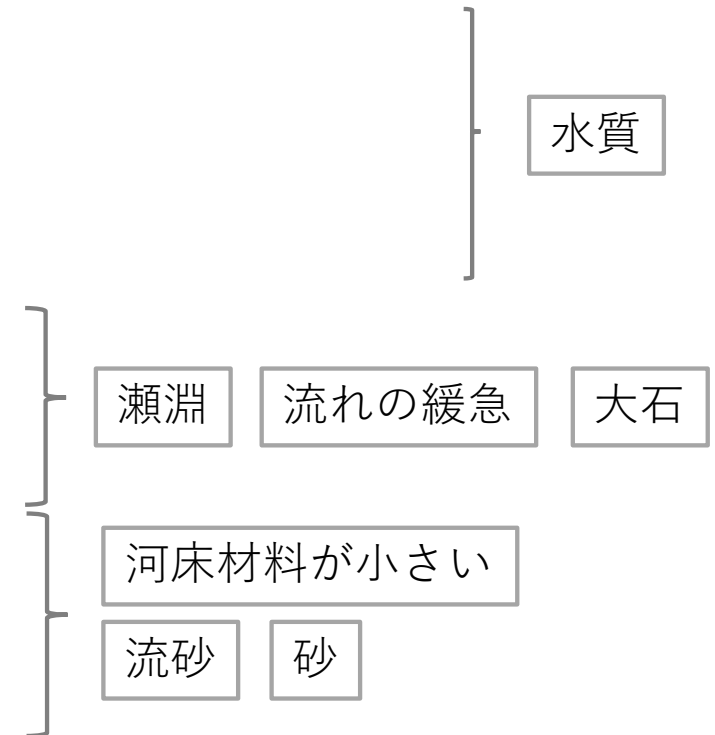
アユの放流

ポジティブ、ネガティブ、ニュートラル

既往調査結果のまとめ

■ アユの生息の場に関すること

- ✓ 経年的に水温に大きな変動は見られない
- ✓ 富士川では経年的にpHに大きな変動は見られない
- ✓ 富士川、釜無川のDOは10前後で推移し安定している。
- ✓ 富士川のBODは、概ね環境基準値以下で推移している。
- ✓ 瀬淵が連続構造し大きな石が分布する
- ✓ 瀬淵の連続性が低い
- ✓ 瀬とワンド、支川が分布し流れの緩急がある
- ✓ 河床材料はやや小さい
- ✓ 常に砂が巻き上がっている
- ✓ 河床は侵食傾向



ポジティブ、ネガティブ、ニュートラル